



回 勉強会を開催

「昨年から、日置農業改良普及センターと農協の営農指導員さんをお願いして、水稻栽培の講習会を開いています。今年は7月と8月の2回行いましたが、ほとんどの農家の参加があり、実際に水田で稲作りや共同防除の指導を受けました。参加者からは防除の時期や肥料の量など様々な質問が出され、農家の米作りに対する意見交換の場にもなり、とても役に立つ勉強会になったと思っています。今後もしばらく続けたいと思っています」

回 効率化と生産コストの低減を

「平成2年から共同防除を始めましたが、地区の全農家が参加しています。個人でやっていた頃は防除日がばらばらのため、

隣の水田に虫が移動するだけで、十分な効果が得られない状況がありました。また高齢者にとつては大きな労力的負担となっていました。共同防除の利点は、

一斉に行うことで最大の防除効果が生まれることです。その意味からいえば全農家が参加していることは大きいですね。また農薬の無駄がなくなり、経費の節減にもなります。個人でやる時の三分の一程度の経費で済むんじゃないですか。通常年2回行っていますが、今年はカメムシの発生があり3回行いました。防除機は1台ですが、4つある班から2名ずつ計8名で、約16畝の田を2日で行っています。

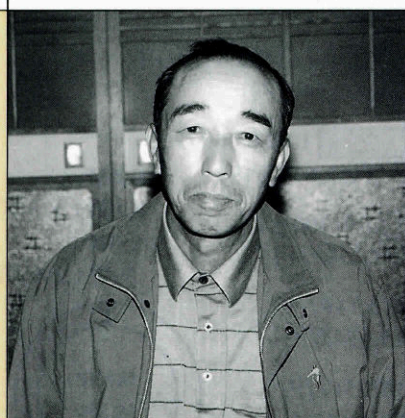
他の地区同様、この地区も高齢化が進み、農業従事者の平均年齢は60歳を超えています。これまで作業の受委託がありましたが、今後ますます増えるものと予想しています。現在この地区には別組織で機械利用組合があり、主に田植えと刈り取り作業を受託しています。基盤整備も済んでおり、地形的にも水田がほぼかたまっているのです、今後もある程度は作業受委託がスムーズにいくのではないかと期待しています。

の経営規模では、個人でやって儲かる時代ではないということにははっきりしています。

地区全体を分割してこの範囲は早物、ここは中手、こちらは遅物というような、品種の統一も将来的には考えていかなければならないと思います。そうすれば、水の管理、防除、刈り取りなども効率的にでき生産コストの低減にもつながり、またライスセンターも一時に米が集中せず助かるようになるのではないかと思います。ただ、そうは思っても現実的には難しいことですが。農業機械は、現状では個人所有が中心になっていますが、特に田植機やコンバインについては、更新期に作業の受委託も含め、考えていくことが必要でしょう」

回 大切な農地

「先祖から受け継いだ農地なので一生懸命守っている。これが多いの農家の本音かも知れません。しかも、私たちにとって米は主食です。この大切な農地をこの先守っていくためにも、作業の効率化、生産コストの低減の方法を、私たちが考えていかなければならないと思っています」



殿台農事組合長
坂田 静雄さん